

自治寮に住むこと 僕とあなたの建設的衝突

びがかる

0. はじめに

吉田寮は、経済的に困窮している学生が、お金がないことを理由に大学に行くのを断念してしまわないように、福利厚生施設として存在します。そして、吉田寮は自治寮であり、寮生の手で運営されています。ここでは、「自治って何をやってるの?」「寮に入ったら怪しい活動を強要されない?」等の不安に、「自治とは何か」を僕なりに言葉にしてみることで答えたいと思います。ことわっておくと、ここに書かれているのはあくまでも僕の考える「自治」です。すべて言葉で説明するのはとても難しいけれど、この文章、そしてパンフレット全体を読むことで、少しは自治の雰囲気や伝わるのではないかと期待しています。

1. 吉田寮は自治寮である

「吉田寮は、寮生の自治によって運営されている」。もちろん、吉田寮は京都大学によって設置されているのですが、その管理を大学にまかせるのが当たり前だとは思いません。

「自治による運営って具体的に何をやってるの?」と訊かれれば、それはもういろいろと挙げられます。入寮選考、部屋割り、寄宿料の徴収・大学への納入。生活上の問題について話し合ったり、大学との関係を考えたり（良好であるに越したことはない）、大掃除を企画したり、寮の備品を管理したり。低廉な寄宿料など、寮にとって大事なものを守るために、時には大きな声をあげて、大学に話し合いを求めることもあります。とにかく、「自分たちのことは自分たちで決めて取り組む」、これが自治による運営です。

2. 吉田寮自治会は寮生の〇〇を守るためにある

上にあげたような運営活動に取り組む主体として、寮生は「吉田寮自治会」を結成しています。寮生はすなわち自治会員。吉田寮として公式に何かをするとき、吉田寮自治会が寮生の総意をもって動いている、ということです。自治会を学校の生徒会と似たものと考えれば、少しイメージがわきやすいかと思います。自治会も生徒会も、その構成員の意見をまとめ、外部への意見表明や要求を行う点では同じと言えるでしょう。異なる点は、自治会にはその存立や運営に学校側の御膳立てがなく、学生自身がすべきことを考え引き継いでいく、という点です。また、多くの学校において、生徒会活動は役員や生徒に負担が集中するものだという勝手なイメージがあるのですが、こと吉田寮自治会においては寮生一人ひとりが主体的に考え行動する

ことが求められる、という点で大きく異なっています。

さて、自治会という団体として動くことは、じつはとても重要です。たとえば、寮費を値上げするという決定が大学からされたと考えてみましょう。一人ひとりの寮生の力は微々たるもの、大学の決定を覆せるほどの力を持つことは難しいでしょう。「吉田寮自治会」という団体として皆の知恵を出し合い、大学に話し合いを申し入れ、強く要求することによって、現実これまで寮の存続と安い寮費を勝ち取ってきたのです。

ここで言いたかったのは、大学に行けることを経済的に保証する福利厚生施設であることを維持するためにも、吉田寮は自治という運営形態を取っている、ということです。「吉田寮自治会は寮生の〇〇を守るためにある」の〇〇の部分に入る言葉は、(大雑把な言葉遣いでちょっと嫌だけれど)「利益」「権利」、あるいは「生活」と言えるでしょう。全国各地の大学で、安い寄宿料で生活できる寮が減っていく中、自治寮であることそれ自体が経済的弱者の切り捨てに歯止めをかけているとも言えるのです。

3. 大学との関係

さて、ここでは寮と大学がどのような関係にあるのかお話ししましょう。先ほど、自治会を高校までの生徒会に例えましたが、寮と大学の関係は、地方自治体と国の関係に似ていると思います。地方自治体(吉田寮)は国(京都大学)の一部であり、地方自治体の住民(寮生)であることは同時に国民(京都大学の構成員)である、ということです。だからと言って、地方自治体が必要以上に国から干渉を受けたり、国の方針から外れることを言えなかったりする理由にはなりません。

現在、京都大学は、吉田寮の自治による運営を認めています。と言っても無条件に確認されてきたものではなく、「寮生が運営や入寮選考を行うことなどを大学が認める」という約束を交わすことで維持されています。この約束のことを確約といい、団体交渉(団交)を行って、大学側の責任者に確約書へのサインをさせることで獲得します。これまで大学側の責任者が交代するたびに、この確約を引き継ぐ団交を行ってきました。

団交というと、労働組合がするもの、というイメージが強いだらうと思います。なぜ学生と大学の間で団交をするのか、疑問に思うかもしれませんね。でも、考えてみてください、決定権や強硬手段を圧倒的に持っているのは大学側です。その力の差をこちらの数の力で少しでも埋めて、少しでも対等な場に立つために、寮生だけでなく関心のある人はすべて参加できる大衆団交の形を取っているのです。

現在、大学とは敵対しているわけではありませんが、過去には吉田寮を潰す・潰させないで徹底的に争った歴史(1980年代の「在寮期限」闘争)があります。おおむね良好といえる

現在の関係も、それにあぐらをかいてはひどく非対称なものに変えられかねない、ということはお覚悟しておかなければなりません。

4. 自治への参加

あなたが寮生になったなら、どのように自治に関わることが求められるのでしょうか。これを読んでいるあなたが一番気になっているだろう箇所にたどり着くまで、少し紙面を食いすぎた感がありますが…。ここでは自治活動への参加の仕方を紹介していきます。

分かりやすいものから挙げるなら、寮生の義務として、「意志決定の場に参加する」、「寮内の日常的な仕事を分担して負う」、というものがあります。また、義務ではありませんが、寮の中枢に関わる役員になることも挙げておきます。

意志決定に参加する

・総会（月2回）

寮に関わる様々な問題について話し合う場です。全寮生に出席が求められますが、欠席には委任状は要りません。意志決定を一部の寮生に背負わせてしまわないよう、できるだけ出席しましょう。多数決を取らずに、その場のだれもが納得するまで話し合うことが特徴です。

・寮生大会（年2回）

半年間の総括・決算と次の半年の方針・予算案を採択します。寮の方針を決める重要な会議で、全寮生は出席義務があります。欠席の場合は委任状が必要です。自治会の活動の中で、ほとんど唯一の多数決を行う場です。

仕事を分担する

・専門部活動

文化部、厚生部、庶務部の専門部とその下の係・局のどれかに必ず所属し、寮内の仕事を分担します。それぞれの部・局の仕事内容については別頁に紹介記事があります。

義務ではないけど、ぜひやってほしい

・役員になる（任期：6か月）

執行委員会や入寮選考委員会など、寮において中心的な役割を担います。厳しい仕事のように聞こえますが、入寮一年目でも、経験者と一緒に仕事を覚えながらやっていけます。任期中はそれ相応の時間は費やすことになりますが、きちんと仕事を分担して、無理して仕事を抱え込んだりしなければ、学業に支障をきたすことはありません。

忙しかったり、活動する時間が合わなかったりして（例えば総会は午後 9 時から行われています）上で挙げた形での参加が難しくても、様々な方法で自治に寄与することはできます。大学との交渉に参加する、共有スペースをきれいに使う、寮内で何が問題となっているのか他の寮生と話す、大掃除に参加するといったことなども、自治への参加の仕方の一つであると思います。

僕が寮生となるあなたに求めるのは、サービスを受けるだけの「お客様」にならないでほしい、ということです。寮生は全員対等です。自治活動に取り組むのも、頑張ればその分給料が出るからではありません。あなたが恩恵を受けたなら、その分同じ寮生である誰かが働いています。この寮が存続していることだって、誰かの頑張りの成果です。寮に住んで少しでも恩恵を得ていると思ったなら、寮のために少しでも自分ができることをしてほしい、と思います。

5. おわりに

寮自治会の活動は、「寮生の生活／利益を守る」という目的から外れることはありません。僕は、「京都大学の学籍を持つ人ならだれでも」入寮資格を持ち、多種多様な人が一緒に暮らしているこの寮で、「寮生の生活／利益を守る」という最小公倍数であり最大公約数を越えた所に自治を行うことはできないと考えています。

この文章でうまく吉田寮での自治について伝えられたかどうか自信がありませんが、読んでくれたあなたの中で、自治寮という言葉から胡散臭さを脱臭できたのなら幸いです。自分たちの手で自分たちの住む場所を運営するということは、まったく大それたことではありません。

もっと自分の経験した自治の楽しさについて触れられれば良かったのですが、このパンフレットには自治寮を舞台に生きている楽しい奴らが楽しいことを好きなように書いているので、それはきっとにじみ出ていることでしょう。

今日もまた、自治空間に飛び込んでくるあなたを待ちかまえています。